

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：45302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00264

研究課題名（和文）知的障害者アートの創作活動に対する環境支援の現状と課題について

研究課題名（英文）Research on environmental support for artistic creation activities of people with intellectual disabilities

研究代表者

土田 耕司（Toda, Koji）

就実短期大学・幼児教育学科・教授

研究者番号：10369770

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：わが国で知的障害者のアート作品にアール・ブリュットという名称が用いられることは、一概に美術的な評価に基づいているとは言い難いといえる。しかし、アール・ブリュットという名称を従来の知的障害者アートに用いたことで一種の付加価値が付けられたと言える。また、知的障害者アートには、アーティストや作品を支えるアートマネジメントの存在と役割が大きく影響すること解った。そのアートマネジメントには、知的障害者が作品を制作する過程に意義と価値をおく。知的障害者福祉のソーシャルアクションの一環を担う。知的障害者の自立と社会経済活動に役立てようとする。それぞれの目的と意図することが研究成果として得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

障害者アートとは障害のある人が創作するアートとわが国では定義されている。アート(芸術)と言ってはいるが、作品を評価する以前にアーティストは障害を持つ者と限定されている。それにゆえに、障害者アートには、「芸術」と「福祉」の二つの側面を持っていることが確認できた。

障害者の中でも特に知的障害者のアートの創作活動においては、アーティストの創作活動、作品、生活全般を支援するアートマネジメントを担う援助者の存在と役割が大きく影響する。そこには、「芸術」と「福祉」の社会的融合という課題がある。

研究成果の概要（英文）：In Japan, the use of the term Art Brut to describe artwork by people with intellectual disabilities cannot be said to be based on artistic appreciation. However, it can be said that the name Art Brut adds added value to art by people with intellectual disabilities. It became clear that the role of art management, which supports artists and their works, has a major impact on art by people with intellectual disabilities.

The existence and role of art management, which supports artists and their works, has a major impact on the art of people with intellectual disabilities. Three patterns can be recognized in art management. Finding meaning and value in the process of intellectually disabled people creating artwork. Social action for the welfare of the intellectually disabled. As a means to promote independence and socio-economic activity for people with intellectual disabilities.

研究分野：社会福祉学

キーワード：知的障害者アート 障害者アート アール・ブリュット アートマネジメント 知的障害者福祉 障害者就労支援 ソーシャルアクション

### 1. 研究開始当初の背景

障害者のアートについては、創作活動もその作品についても定まった名称があるとはいえない。そもそも、障害がある人たちが創作する芸術作品を一括りにした名称を用いて特別視する必要があるのか疑問がある。近年、障害者アートの世界では、一般に使われているアール・ブリュットやアウトサイダー・アート、エイブル・アート、ボーダレス・アートは決して障害者のアートを指した名称ではない。アール・ブリュットやアウトサイダー・アートは、美術界から起こった言葉であり、エイブル・アートとボーダレス・アートはわが国で生まれた福祉の現場から起こった言葉である。これらは、障害者アートの中で用いられることはできるが、障害者アートとイコールではない。

しかし、近年では障害者アートの中でも知的障害をもつ人たちの作品にアール・ブリュットの名称を用いて注目されている。この知的障害者アートとは、特異性を持った才能を発揮したアート作品として美術界などで注目され芸術的に高い評価を得て、美術館等に展示や収蔵されることは少なくない。

わが国でこれらの障害者アートが社会的に注目を集めるのは2000年代に入ってからである。2007年に文部科学省と厚生労働省による「障害者アート推進のための懇談会」が開催され美術活動を中心に推進されている。さらに、2015年には、文化庁と厚生労働省による「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会」が設置され障害者の芸術文化を振興の具体的な取り組みが検討された。このことから、障害者アートへの支援する動きは、今後ますます活発化し推進されていくものと考えられる。

このような国の方針を受け、民間の団体においても独自の組織を立ち上げ活発に支援している。また、障害者施設や機関、団体等が中心となり、全国各地障害者アートの展示会や啓蒙活動が活発に開催されている。今後、多方面からますます関心は高まりつつある。そこで、わが国の今日の知的障害者アートの創作活動と創作作品を取り巻く現状について精査し、今後の知的障害者アートが抱え持つ課題について知的障害者福祉の視点からも精査する必要があるとされている。

### 2. 研究の目的

わが国の知的障害者アートに関して、知的障害者アーティストの創作活動と創作活動の支援環境について知的障害者アートを支えるアートマネジメントの役割に注目した。

そこで、以下の双方から研究調査をすることとした。

- 1) 知的障害者アーティスト当事者に対して、創作活動の現状について。
- 2) 知的障害者アートのマネジメントである支援者の支援体制の現状について。

仮説として、知的障害者アーティストが持ち得ている才能を、見つけ出し、引き出し、伸ばす等の役割は、知的障害者アーティストの創作活動を支援する側の役割が重要である。この知的障害者アーティストの才能と、そのその才能を引き出す環境を支え、知的障害者アートと知的障害者アーティストを支援するアートマネジメントを担う者との双方が整うことによって、わが国では知的障害者アートが開花しているのではないかと考えた。

そこで本研究においては、双方に調査することで、知的障害者アーティストへの創作活動等の環境支援の現状を調査し課題等を整理することによって、今後の知的障害者アートの発展に寄与することを目的とする。

### 3. 研究の方法

障害者アートの対象者を知的障害者に限定して研究を実施する。研究方法は、知的障害者アートのアーティストと創作活動の実践施設やその支援者を訪問し、知的障害者アートの創作活動を行うに至った経緯や目的、知的障害者アートと知的障害者支援の実践活動や関係や考え方等についてインタビューに基づく調査をした。

その調査は、知的障害者アートのアーティストである当事者のと、その知的障害者アーティストの日々の創作活動や生活を支援し、知的障害者アーティストを支えている障害者福祉サービスを提供する障害者支援施設や機関、団体等の支援側との、双方に対してインタビュー調査をする。また、知的障害者アートの創作活動を支援者の実践活動に関する文献を精査した。

本研究の倫理的配慮としては、一般社団法人日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守して行った。特にインタビュー調査対象者に対しては、本研究の意義を説明し理解を得ること、施設等の内情等を質問するため得られた情報は個人や団体が特定できないようにすること、答えたくない内容には答えなくてよいことを伝えた上で行った。また、本研究に関する研究倫理については、第1研究者が所属している就実大学・就実短期大学教育・研究倫理安全委員会の承認を受けその管理のもとに実施した。

#### 4. 研究成果

##### わが国の知的障害者アートとアール・ブリュット

わが国では2000年頃から知的障害者の創作作品を、正規の専門的な美術教育を受けていない人々による芸術として分類されるアール・ブリュットという名称が頻りに用いられ、あたかも美術の新しい領域として特別視しているように感じられる。

これらの知的障害者の創作作品の中には少なからず、その特異的な感性からなのかは定かではないが人々に斬新な衝撃と感動を与え、美術作品として高い評価を得ていることは事実である。これらのような知的障害者の創作作品は、近年に起こったことではなく、アール・ブリュットという言葉が存在しなかった時代でも同じことであり、知的障害者によってその異才を放ち創作された作品が数多く存在していることも事実である。

そこで、わが国の知的障害者アート作品にアール・ブリュットという言葉という言葉が用いられるようになった背景に関しては、滋賀県の「ボーダレス・アートミュージアム NO-MA」とその関係者たちが中心となり、2010年に知的障害者たちの創作作品の展覧会をパリ市立美術館で「アール・ブリュット・ジャポネ展」を開催した。この展覧会が終わるとすぐに、日本国内各地で凱旋展覧会が盛大に開催され、この展覧会の反響はマスコミなどで頻りに取り上げられています。このような背景から、この展覧会名にある「アール・ブリュット」の名称が、わが国では障害者アートを表すかのようになっていった経緯がある。特に知的障害のある作家による美術活動や美術作品のことをアール・ブリュット作品であるかのような印象が社会の中に持たれていったと考えることが妥当であった。

##### わが国の知的障害者アートの浸透の社会的土台として

サヴァン症候群とは、精神障害や知能障害を持ちながら、ごく特定の分野に突出した能力を発揮する人や症状のことをいう。

知的障害のある人たちの美術において、対象や事象を捉える造形的な視点を無視したかのような作品であったり、発想や構想において造形的な美しさや表現の工夫に捉われない得意な作品であったりする中で、美術の創造活動の楽しみや喜びが伝わって作品に出合える。それは、サヴァン症候群であるかは定かではないが、特異的な感性からなのか、それを鑑賞した人々に斬新な衝撃と感動を与えられた経験のある人は少なくはない。

知的障害をもつ人々とサヴァン症候群の関係は、科学的に立証はされていないが、美術面での絵画やデッサン、陶芸等に関する才能としては、有名なテレビドラマの『裸の大将放浪記』(のちに『裸の大将』)のモデルにもなった「放浪の天才画家」とか「日本のゴッホ」と称された画家の山下清(1922-1971)の存在が有名である。サヴァン症候群として限定としてではないが、知的障害のある人々の中には、発想や構想において斬新な美しさや、表現の工夫に捉われない得意な作品を制作するものが存在することを、わが国では暗黙知となっていたと考えられる。

##### 知的障害者アートの創作活動の背景

知的障害者アートの創作活動はどのような目的や意図で行われているのか整理する必要がある。

- 1) 余暇活動、レクリエーション活動での創作活動。
- 2) 特別支援教育や治療訓練を目的として行われる創作活動。
- 3) 就労支援や作業支援の一環で経済活動としての創作活動。

この3つに大きく分けることができる。これらの創作活動で完成した作品の中には、芸術性の高い評価を受けている作品も少なからず存在している。高い評価を受けている作品の多くには、1) 余暇活動、レクリエーション活動での創作活動からみられる。それは、自由な発想で創作活動が行われることによって、秘められていた素晴らしい能力を持っていた人たちが才能をそのまま発揮することができる環境が与えられていたからであった。知的障害を持つ者には、日々の生活の中での個人の趣味や余暇活動の範疇で自由に制作活動をすることから秘めた才能が発揮されるといえる。

##### 知的障害者アートのアートマネージメントの目的と意義

知的障害者アートを取り巻く環境には、知的障害者アートを制作する知的障害者アーティストと、彼らとその作品を支える人たちの存在である。つまり、知的障害者アートのアートマネージメントを担う者(施設や組織を含む)である。本研究を進める中で、そのような多くの人たちと出会い、その想いや考えに触れる機会が得られたことは貴重なことであった。その障害者アーティストとその作品を支える人たちには、3つのパターンに分類することができる。「

- 1) 知的障害者が作品を制作する過程に意義と価値を見出す人たち。
- 2) 知的障害者の福祉理念のために活動する人たち。
- 3) 知的障害者の自立と社会経済活動に役立てようとする人たち。

複数のパターンを兼ね備えている人たちも当然存在するし、その方が多くあると言っても過言ではない。

本研究の成果としては、この知的障害者アートを支えるアートマネージメントの目的とその

意義について分類できたことに、一定の意義があったと考えている。

#### 知的障害者アートのアートマネージメントの背景

1) 知的障害者が作品を制作する過程に意義と価値を見出す人たち。

知的障害児(者)を支援する施設などで戦後に知的障害児(者)の支援活動や情緒の安定を図る活動の一環として取り入れられていた造形活動の作品の中から作品が生まれていった。これらの創作活動で完成した作品の中には、芸術性の高い評価を受けている作品も少なからず存在している。しかし、完成された作品よりも作品が誕生する過程において知的障害者支援の福祉的な意義があると考えている。美術的な出来栄の評価や経済的な価値などは必要なことではない。知的障害者アートには、知的障害者が作品を制作する過程に大きな意義と価値を見出していた。

2) 知的障害者の福祉理念のために活動する人たち。

日々、知的障害者への支援をしている者の中には、障害の特性ゆえに、特異的な才能を發揮し個性的で優れた芸術作品が存在することも知っていたし、その作品が知的障害者施設などには少なからず保管されていたことも知っていたと考えられる。これらの作品を多くの人に知ってもらうことから、知的障害者福祉への理解と啓蒙活動を図ろうとしたのではないかと考えられる。つまり、優れた知的障害者アート作品によって、知的障害者福祉のソーシャルアクションの材料と考えていた。知的障害者アートが社会変革運動の手段の一つとして、自らの理念を持って活動している。

3) 知的障害者の自立と社会経済活動に役立てようとする人たち。

知的障害者アートがいつの間にか「アール・ブリュット」という名称に置き換わり、知的障害者の制作した作品に経済的な価値を高める役割を果たした。アール・ブリュットの市場効果は、知的障害者に仕事と働く場所を新しく作り出した。ちょうどその頃、障害者福祉施策の変革も重なり、障害者の社会経済活動への参加がより推進され、就労の機会が広まっていった。これら変革の流れの中で知的障害者の創作活動が、福祉施設での就労支援として創作活動が経済活動の手段として取り入れられていった。また、芸術的な才能をもっている知的障害者をアーティスト社員とし正社員として採用し、アート作品の制作やデザインに従事させている民間会社もできている。このように、知的障害者に就労の場と社会経済活動への参加の手段となっている。

#### 知的障害者アートの次の課題

障害者アートには、「芸術」と「福祉」の二つの側面を持っている。それは、わが国では障害者アートとは障害のある人が創造するアートとの定義から、障害者アートとはアート(芸術)とってはいるが、作品を評価、判断の以前に、アーティストは障害を持つものと限定されている。このことについての賛否はここでは論ずることを控えるが、この点においては社会で論じられなければならない。

障害者アートのアーティストは、障害がある人が対象であるとなると、そのアートマネージメントにも「芸術」と「福祉」の両面からのマネージメント能力の要素が必要であることは当然である。また、障害者といっても障害の状況で身体障害、知的障害、精神障害とそれぞれの障害の特徴が違っている。さらには、同じ障害であっても個人によってはその支援内容は違って当然である。また、「芸術」なのか「福祉」なのかを論ずるのではなく、双方を必要とする障害者アーティストと、そのアーティストと創作活動等を支えるアートマネージメントを担う人たちの存在と活動があった。

特に、障害者アートの中でも知的障害のある人たちに見られる美術面での驚異的な能力や異才を發揮するアート活動やアート作品に関わるアートマネージメントの実践において「芸術」と「福祉」の両面が必要不可欠であり、それぞれの立場での役割を果たすことで、「芸術」と「福祉」の融合性が図られているのではないかと考える。

#### 参考文献

- 1) 嘉納礼奈, 保坂健二郎監修, 『アール・ブリュット アート 日本』, 平凡社, 2013, 東京
- 2) 『ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 10年の軌跡 - 境界から立ち上がる福祉とアート -』, 社会福祉法人グロー, 2014, 滋賀
- 3) 服部正, 障がい者アートとしての和製アール・ブリュット, 民族藝術 Vol. 34, pp101-107, 2018
- 4) 服部正, 『アウトサイダー・アート: 現代美術が忘れた「芸術」』, 光文社新書, 2003
- 5) アール・ブリュット・コレクション, 『日本のアール・ブリュット もうひとつの眼差し』, 国書刊行会, 2018, 東京
- 6) Darold A. Treffert 著, 高橋健次(訳), 『なぜ彼らは天才的能力を示すのか サヴァン症候群の驚異』 pp21-26, 1990, 草思社
- 7) 鈴木七沖・高関進, 『山下清のすべて』, サンマーク出版, 2000, 東京
- 8) 三頭谷鷹史, 2008, 『宿命の画天使たち 山下清・沼祐一・他』 美学出版, 東京
- 9) 日下部行洋編集, 『太陽の地図帖 013 山下清の放浪地図』, 平凡社, 2012, 東京
- 10) 三頭谷鷹史, 『宿命の画天使たち 山下清・沼祐一・他』 美学出版, 2008, 東京
- 11) 吉永太市, 『遊戯焼 生の象形 一麦寮の足跡から』, 田村一二記念館, 2015, 滋賀
- 12) 吉永太市, 『知的障害児(者)の造形活動』, 田村一二記念館, 2020, 滋賀
- 13) 北岡賢剛・岡山慶子対談, アール・ブリュットは美術界に刺激を与え, 福祉に新しい風を起

- こした、社会保険 70(11)、pp25-27、2019
- 14) 成田孝、『障がい者アート-「展示会」と「創作活動」の在り方-』,大学教育出版, ,2019
  - 15) 楠田弥恵,2017,アート分野に進出する知的障害者 - ギャラリーの支援と市場開拓 - , 横浜市立大学論叢社会学系列 Vol. 68 No.3,pp169-191
  - 16) 問いかけるアート編集委員会,『問いかけるアート - 工房の挑戦』,さわらび舎,2017,埼玉
  - 17) 障害者アート推進のための懇談会,『障害者アート推進の懇談会～ぬくもりのある日本、みんなが隠れた才能をもっている～』,2008

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 土田耕司	4. 巻 51
2. 論文標題 わが国の知的障害者の創作活動とアール・ブリュットに関する考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 就実論叢	6. 最初と最後の頁 133-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 土田耕司	4. 巻 15
2. 論文標題 知的障害者アートの現状と課題に関する一考察 - 障害者福祉の支援者の視点から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 就実教育実践研究	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 土田耕司	4. 巻 53
2. 論文標題 知的障害のある人たちへのアートマネジメントの課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 就実論叢	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 土田耕司・橋本勇人
2. 発表標題 わが国の知的障害者アートとアール・ブリュット
3. 学会等名 日本社会福祉学会 中国・四国ブロック第53回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	尾崎 公彦  (Ozaki kimihiko)  (40270003)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授   (35309)	
研究分担者	荊木 まき子  (Ibaragi Makiko)  (00781048)	就実短期大学・幼児教育学科・准教授   (45302)	
研究分担者	藤嶋 由  (Fujisima Yu)  (50351945)	吉備国際大学・保健医療福祉学部・講師   (35308)	
研究分担者	橋本 勇人  (Hasimoto Hayato)  (50341144)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授   (35309)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------